



お施 餓鬼法要が始まります

「おせがき」は、「施餓鬼会（せがきえ）」「施食会（せじきえ）」などといわれ、各宗派を通じて行われる仏教行事の一つです。その由来は、『救拔焰口餓鬼陀羅尼經（くばつえんくがきたらにきよう）』

というお経によるといわれています。それによると、釈尊の十大弟子の一人である、阿難尊者（あなんそんじゃ）がひとりで瞑想している時、口から火を吐く一人の恐ろしい餓鬼があらわれ、「お前は三日後に死んで、我々と同じ恐ろしい餓鬼道に落ちる。」と言われました。恐れおののいた阿難尊者が、どうしたらそれを免れることができるか釈尊に尋ねたところ、釈尊は、



「その苦から免れたければ、三宝（仏・法・僧）に供養しなさい。また無数の餓鬼たちに食物をほどこして供養した功德により、餓鬼も救われ、その功德によってお前もすくわれるだろう。」と答え、姿を消しました。施餓鬼会は釈尊に教えを請い、寿命を延ばすことのできた阿難の説話にもとづく行事であり、その求めに応じて釈尊が示された修法が施餓鬼会のはじまりとされています。そして餓鬼だけでなく、先祖代々や広く無縁の諸精霊を供養し、また同時にみなさん自身の福德延寿（ふくとくえんじゆ）を願うわけです。ぜひこの施餓鬼会の機会に、心からお念仏を称え、自他ともに救われる功德を積んでいただきたいのです。施餓鬼会は、新亡の霊や先祖代々の先亡諸霊を供養するとともに、無縁仏や餓鬼に施しをする法要であります。さらに



日頃の自分自身に巣くう「餓鬼」の心を反省し、自他ともに生かされていく身をしつかり受け止め、救われる功德をお互いに積んでいくことが大切なことであります。先祖追福（せんぞつうふく）のために、また一切の生き物の霊を慰め、あわせて自分自身の福德延寿を願う法要です。

◇施餓鬼仏具奉納寄進の件
施餓鬼会を行うにあたり多くの檀家の皆様より仏具料を奉納していただいておりますが、前記の通り無縁の諸精霊を供養するにあたり、お布施頂いたことになりません。これからは毎年、施餓鬼が行われる度に仏具奉納者の方々の施しの気持ちを通じることになるでしょう。これからも施餓鬼会に対し仏具の奉納をいただいた方には施餓鬼壇に奉納者の名前を記載し永く施餓鬼会にて使わせて頂きます。（しばらく奉納を受付ます）

☆前回のお知らせ以降に仏具料を奉納して頂いた方
田嶋 新藏 様 島田 英夫 様・
島田 節夫 様 由島ゆき子様・

◇法職のつづやき
明年平成二十二年は浄土宗宗祖法然上人が亡くなられて八百年目の年になります。八百年忌（はっぴゃんねんぎ）浄土宗をあげて五十年に一度の大きな行事も計画されており、小生も東京の浄土宗寺院の代表者の一人として八百年大遠忌推進委員に推挙され月に四〜五回程、増上寺裏手の浄土宗事務所での打ち合わせ会議に召集されておりあります。すでに数回の行事は終わっておりますが、本年五月の連休中に行われる 五重相伝会（ごじゆうそうでんかい）では道場長として臨みます。この行事が一番の事業でこれが終われば六十年ぶりの法問寺施餓鬼会となるわけです。法要に先だつてのチター演奏とおはなしをしていただくことになった内藤敏子先生との再会も何か目に見えない力で動かされているように思います。忙しい毎日になっていきますが、五十年に一度の仏縁と思ひ精進しております。五重相伝会の贈五重（ごじゆうそうでんかいのくわいごじゆう）は施餓鬼会の際に施主の方にお渡しするつもりです。

南無南無



法問寺 花だより

早いもので、二〇一〇年も、もう四月に入りました。今年は、やはり天候不順なのでしょうが・・・お彼岸にも、「春の嵐」よりも大分荒れた強風に見舞われたり、「三寒四温」ではあるけれど・・・ちょっと寒暖の差が、激しすぎませんか!? っという陽気が、まだ、続いていますね。法問寺でも、春を告げる**雪柳たち**が年々無事に育ってくれて、白と淡いピンクの花をフワフワと咲かせてくれたのですが、あの強風で大分、散ってしまい、短い命に、ちょっと残念・・・でした。そして、本堂の真裏では、**白木蓮**が、こちらも年々お花の数を増やしなが



ら、咲いてくれまして。今年はプレハブの陰になっ

てしまっ

て、ちよ

っと残念

でした。私個人的には、あの白い大きな花びらの根元の、淡いローズ色がとっても上品な艶やかさで、毎年魅せられています。また、ご存知の方には、もうお馴染みになった **クリスマスローズ**たち

ち：正面の門を入っ

すでに大株に育った、蕾のときには濃い赤紫、花が開き次第に色を淡めていき、終いにはピンクに近い色になって長い間楽しませてくれるクリスマスローズが、たくさんのお花を今も咲かせています。そして、今年も念願の黒のクリスマスローズが、やっとのことで我が家で育って(いつも小さなポット苗を買って育てているもので・・・)、黒の花を咲かせてくれます。ちょうど黒百合のような色合いの花です。

また、黄色や、花の外側が赤、中側は淡いクリーム、のクリスマスローズも、ちゃんと小さかった苗から育って、花をつけています。

ちなみに**クリ**



スマスローズは、半日陰を好むので、あまり目立たないところで咲いているので、境内でも見落とされがち。「見てみたい!」の、見つからなかった方は、是非、お声をかけてくださいね!? ご案内します(笑)。

今年はずっと花期が遅くなり、彼岸にはまだ開かなかった、**桃たちは**：本堂前には、**咲き分けのしだれ桃**、本堂裏手には、**咲き分けの桃**、**濃い桃色の桃**が今、ちょうど満開です

そして、4月、**といえ**

桜!

3月下旬から、本堂前側の境内の、しだれ桃の真向かいあたりにある**早咲きの桜**が咲き始めました。ちょっと濃いピンク色の大きな丸めの花で、いま、満開を迎えています。

裏手にある **八重桜** も 大分咲き始めている。あまりに 小さな苗を買ってきいたので、いまだにあまり背が伸びませんが、毎年、小さいながら枝いっぱい花を咲かせています。この後、本堂正面脇の **しだれ桜**、脇門から入ってくる途中の **八重桜**、そしてしだれ桃の隣の**御殿場桜**が楽しませてくれることと思います。

お時間の或る方は、是非、お墓参りがてらにお花見、してください!

また、今年五月十六日にお施餓鬼会がありますので、もう何年ぶりかなんですが、**バラ**を再開しました。十鉢以上のバラを、今、育てています。元気に育って、五月に皆さんに、色、香りともに、楽しんでいただけたら・・・と、願っています。

最後に・・・、

まだ、これからの作業ですが、4月中には、また、夏に向けて、**蓮の植え込み、植え替え**をします。きつとまた、作業した次の日は、腰、肩、腕、そして指先までの、筋肉・関節痛になるのだらうなあ・・・(笑)と思いつつ、でもとても楽しみです。

